

조선일보

「トウモロコシ横流し」産経の記事は事実無根

中国産、共和国経由の飼料/書類に明示、日本政府も確認

産経新聞が17日付朝刊トップで「北朝鮮 穀物、日本に輸出」「トウモロコシ1030トン 外貨獲得狙い支援、横流し？」との見出しで報じた記事が、事実無根の反共和国宣伝だったことが明らかとなり、世論の厳しい非難を浴びている。

この記事は、共和国の「万景峰」号が青森港にトウモロコシを陸揚げした事実をもって、あたかも共和国が国連をはじめ各国から支援されたトウモロコシを、外貨稼ぎのために横流ししたかのように報じている。しかし、このトウモロコシは中国産で、共和国を経由して日本に輸出された養鶏用飼料であることが明らかとなっており、輸入業者ら関係者は、同紙に激しく抗議している。

梶山静六官房長官も18日午前の記者会見で「14日に青森港に入港した北朝鮮船籍の『万景峰』号が積載していたトウモロコシ1030トンについて、青森県畜産課が輸入元の養鶏業者に確認したところ、北朝鮮を経由して輸入したとの回答を得た」と述べ、産経の報道内容を否定している。

食糧支援を牽制

記事中に「北朝鮮に対する...食糧支援論議に影響を与えそうだ」との記述があることから分かるように、これが日本国内で日増しに高まっている食糧支援論議を牽制する目的から書かれた謀略報道であることは、疑いの余地がない。

青森港に陸揚げされたトウモロコシは、同県内の「常磐村養鶏農協」（常磐養鶏）と中国の業者との間で取引されたもの。産経は「生産国などは不明」などとしているが、中国・吉林省の原産であることが、原産地証明書に明記されており、当事者に問い合わせれば容易に確認できる。養鶏業者、輸入業者ら関係者は、4日には直接、清津を訪れて検品を行っており、トウモロコシが中国の図們から清津まで列車で運ばれたことも確認している。

関係者らは中、朝、日の3国にまたがるルートを経たものであると明言し、報道内容を一蹴している。

事実関係故意に無視

以上のように事実が明白であるにも関わらず、産経新聞がこれを意図的に無視して反共和国記事をでっち上げたことは、同紙の謀略紙としての本質を明らかにしたと言える。

「常磐養鶏」と中国の業者との取引を仲介した横浜の「有限会社チョー照」の張英九社長（59）も、「完全に事実無根だ。センセーショナルな見出しで記事をでっち上げ、共和国への支援の流れにブレーキをかけようという魂胆が丸見えだ」と憤りを隠さない。

中継貿易の展望示す/中 朝 日の輸入ルート

トウモロコシを輸入した「常磐養鶏」は約20年前から、中国・吉林省の業者と提携して大連経由のルートで中国産飼料を輸入してきたが、それよりも日数を5日間以上短縮でき、良質のトウモロコシを随時調達できる羅津経由のルートを研究中だった。今年3月からルート設定の具体的な作業に取りかかっていた。

一方、「チョー照」でも中国東北地方の農産物を羅津、清津を経て運ぶ中朝日の流通ルート開設に努めてきた。

今回のトウモロコシ輸入は、「常磐養鶏」のニーズが「チョー照」の仲介で実現したものと見える。

「チョー照」の担当者は今回の取引が、羅津 先鋒自由経済貿易地帯の設定後初の、清津、羅津を経由する中日貿易ルートの実現となった意義を強調。中継貿易基地としての同地帯の展望の明るさを示唆した。